

2015年3月期 決算説明会

東証一部 証券コード：6879

株式会社イマジカ・ロボット ホールディングス

Imagica Robot Holdings Inc.

2015年5月27日（水）

目次

1. SDIメディアの買収について	P.3
2. 2015年3月期 連結業績	P.9
3. 2016年3月期 計画	P.14
4. 事業セグメント別の業績・計画	P.17
5. 今後の事業展開	P.30
6. 配当金の推移	P.31
7. 参考資料	P.33

2015年3月期 トピックス

- ✓ **東京証券取引所市場第一部銘柄に指定（2014年4月）**

2011年4月:JASDAQ上場→2012年12月:東京証券取引所市場第二部上場

- ✓ **代表取締役社長交代、新体制の発足（2014年7月）**

「成長戦略の推進」と「経営基盤の一層の強化・維持」に重点

- ✓ **自己株式の処分等に伴い、株主数が大幅増**

（2015/3末時点：5,319名 ※2014/3末比+1,304名）

- ✓ **SDIメディアの買収（2015年2月決議・発表、2015年4月連結子会社化）**

SDIメディアの買収について

SDIメディアの概要

- 会社名 : SDI Media Group, Inc.
- 本社所在地 : 米国カリフォルニア州
- 代表者 : Chairman 中村昌志、CEO Walter Schonfeld
- サービス内容 : 吹替え・字幕付け、聴覚障害者向け字幕等
- 売上高 : 167百万USドル (約200億円)
- 従業員数 : 約1,100名
- 買収実行日 : 2015年4月1日付



<SDIメディアの強み>

- ✓ メディア・ローカライゼーション分野では、世界No.1企業
- ✓ ハリウッドメジャーなど、海外の大手映像関連企業との強固な関係
- ✓ 37カ国にもわたるワールドワイドな事業展開
- ✓ 吹替え50言語以上、字幕制作80言語以上に対応、広範な言語と地域

SDIメディア連結子会社化の目的

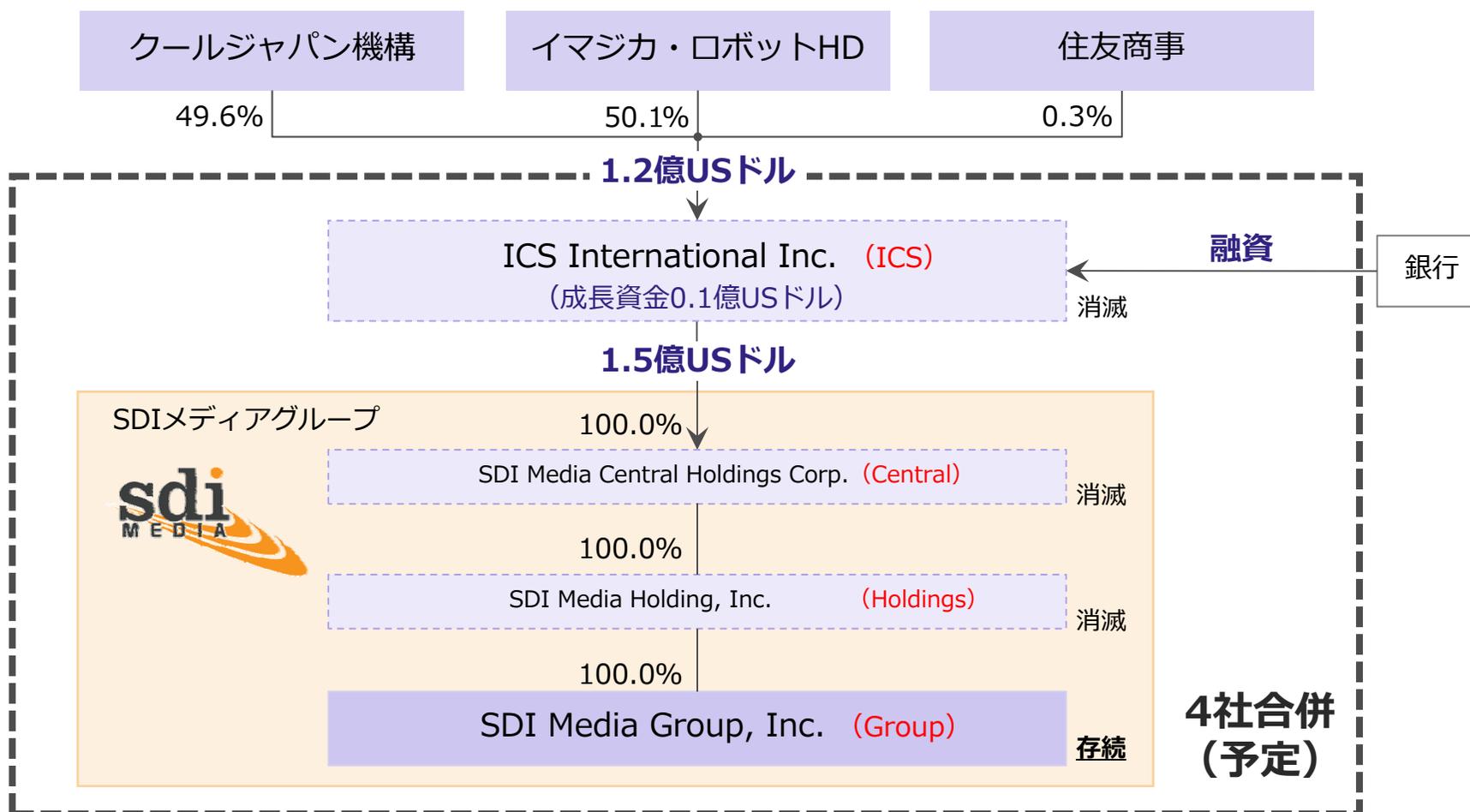
1. 既存顧客に対する、字幕・吹き替えサービスの提供
2. SDIメディアの既存顧客に対する、当社グループの商品・サービスの提供
3. 吹き替え・字幕付けサービスの提供による新規顧客の獲得
4. マレーシア拠点に続き、国内マーケットから世界マーケットへ
5. グローバル人材の育成と、多様な人材の獲得

<グループのビジョン>

- ・ 世界最高の映像関連専門家集団を目指す
- ・ 世界の映像業界に対して最高の制作技術とインフラを提供し続ける
- ・ 世界最高の映像制作会社を目指す

共同投資による株式取得の概要

クールジャパン機構および住友商事株式会社と共同で出資する特別目的会社「ICS」を通じて、「Central」の発行済株式の100%を取得。当社は2015年4月1日付で「Central」を連結子会社化。SDIメディアグループの管理体制の効率化を推進し、より一層の企業価値の向上を図ることを目的に、「ICS」「Central」「Holdings」「Group」の4社を統合予定。

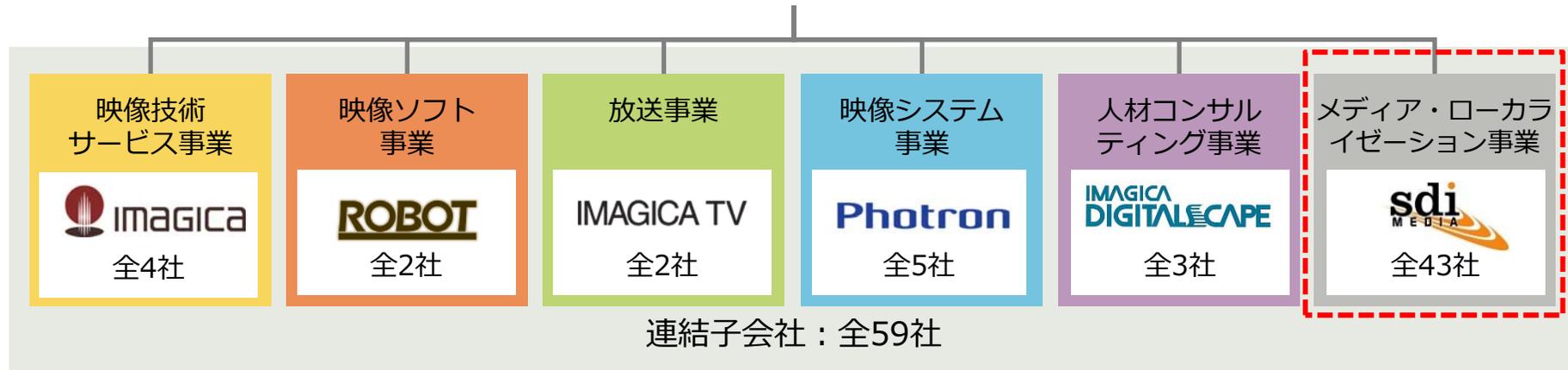


事業セグメントと事業領域

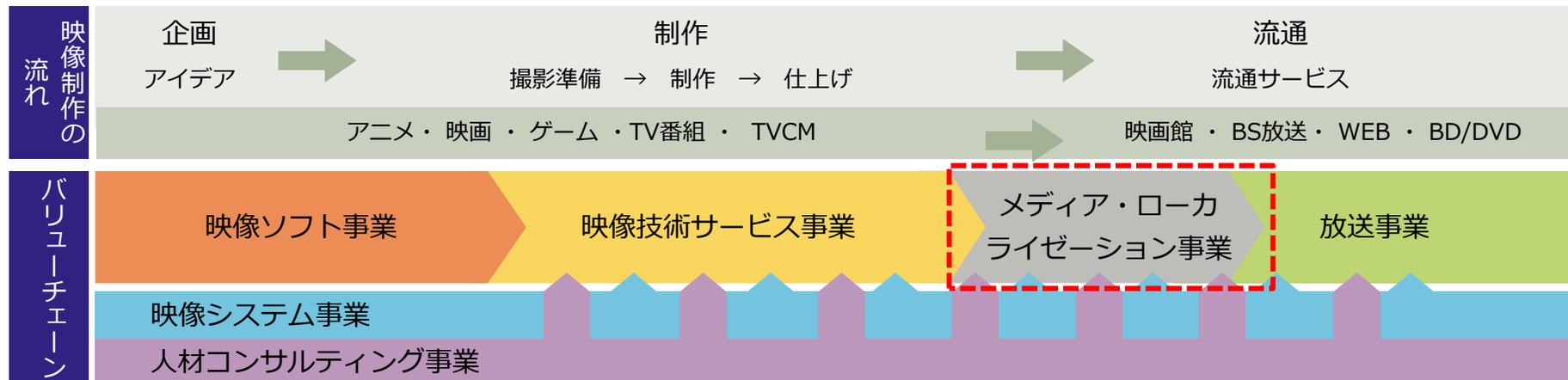
メディア・ローライゼーション事業を開始

Imagica Robot Holdings Inc.

2015年4月1日現在



映像制作のプロセス全体をカバーするグループ



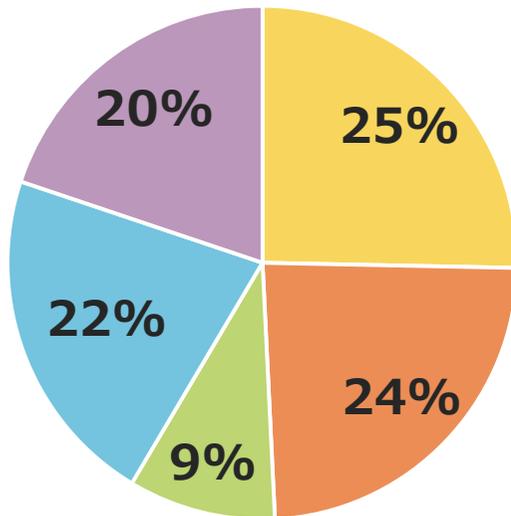
7

セグメント別売上高構成

メディア・ローカライゼーション事業が売上高構成比で最も大きい事業セグメント

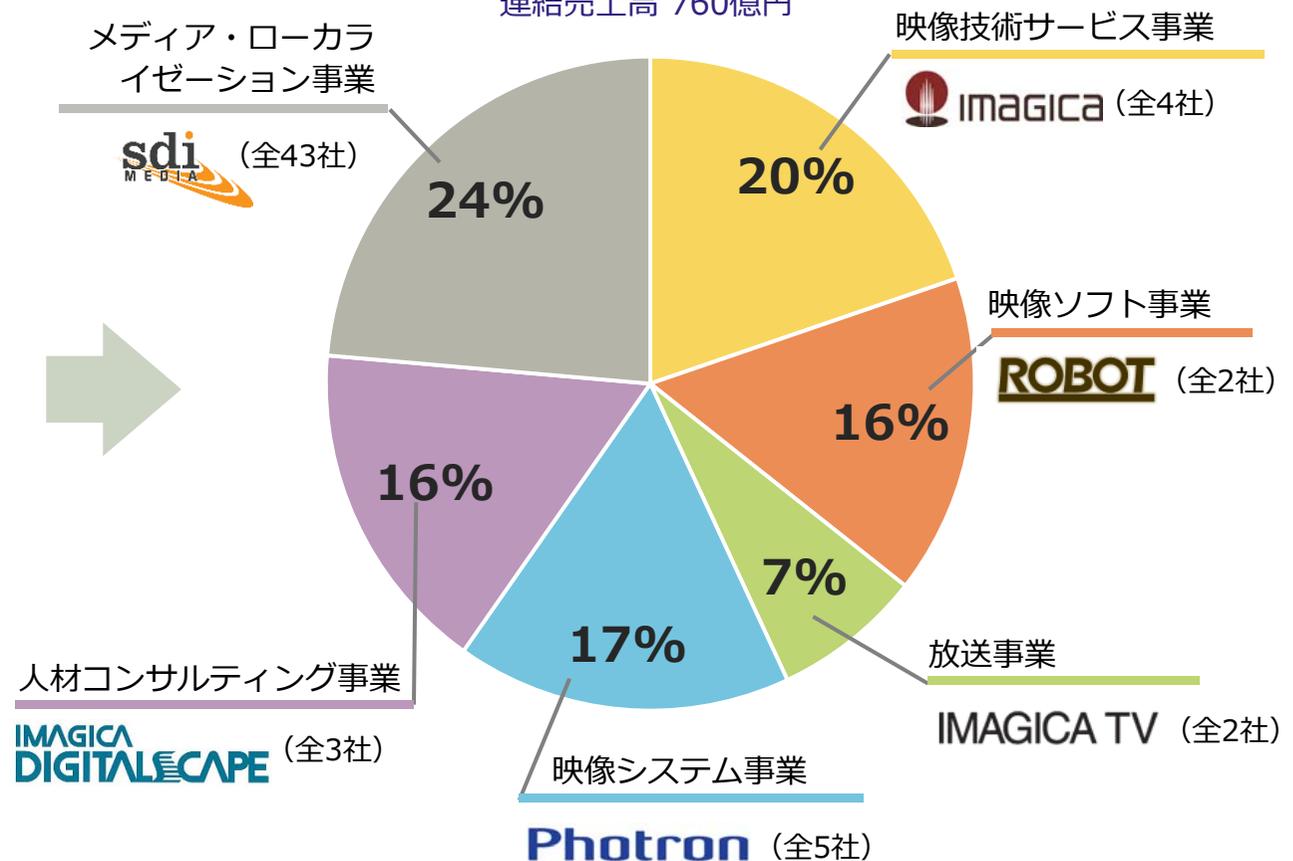
2015年3月期 実績

連結売上高 556億円



2016年3月期 計画

連結売上高 760億円

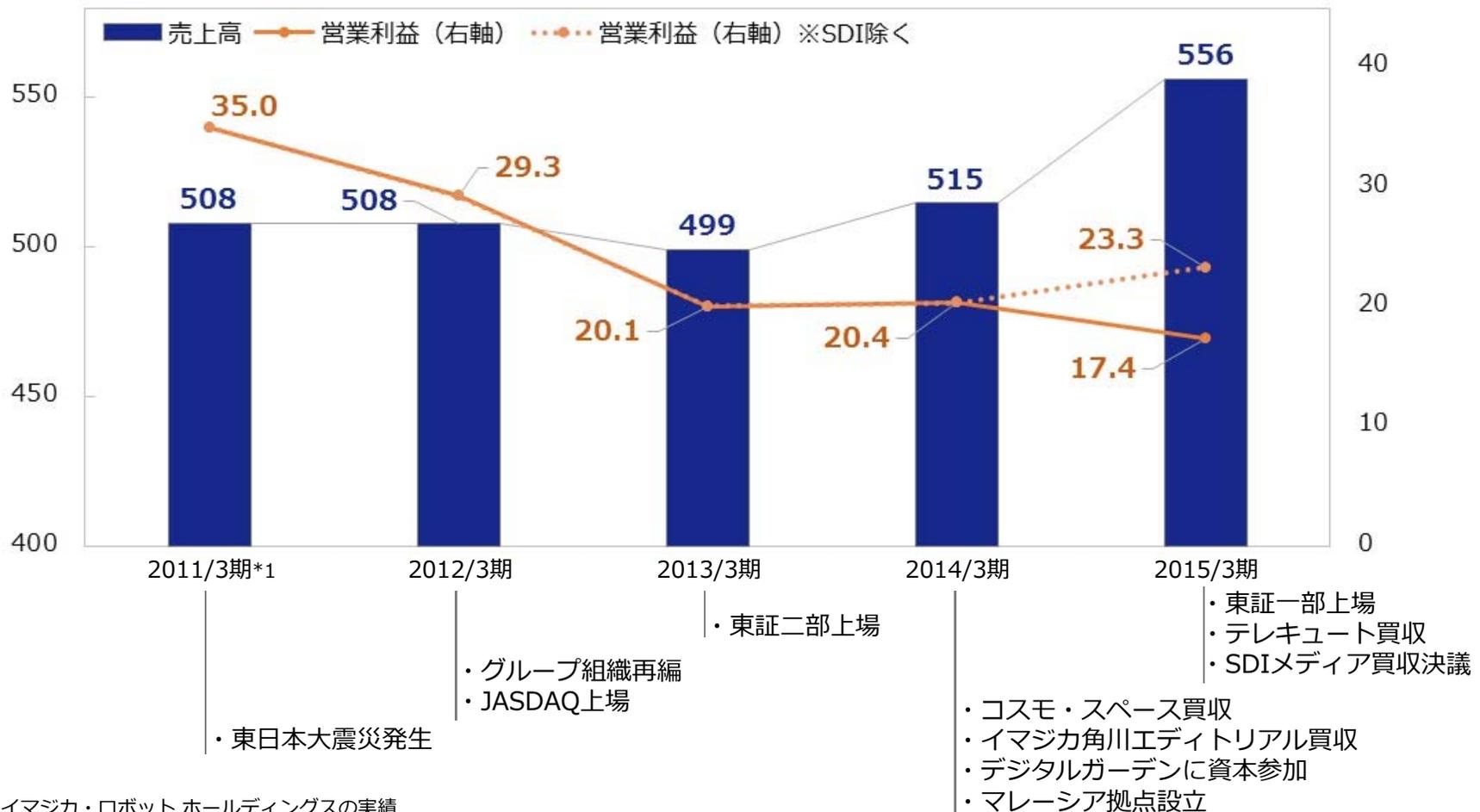


2015年3月期 連結業績

2015年3月期 決算ハイライト

売上高556億円（前期比+8.0%）、**営業利益17.4億円**（前期比△14.7%）

但し、SDIメディア買収関連費用を除くと2期連続で増収増益



連結損益計算書

映像ソフト、映像システム事業が好調で売上高拡大
 販管費において約6億円のSDIメディア買収関連費用を計上

(単位：百万円)	2014年3月期		2015年3月期			主な増減の要因
	通期実績	通期予想 (5/8発表)	通期実績	前期比	予想比	
売上高	51,526	52,000	55,651	+4,124 (+8.0%)	+3,651 (+7.0%)	映像ソフト、映像システム事業が好調
売上総利益	14,698	—	15,526	+827 (+5.6%)	—	
営業利益 (営業利益率)	2,047 (4.0%)	2,100 (4.0%)	1,747 (3.1%)	△300 (△14.7%)	△352 (△16.8%)	SDIメディア買収関連費用△585
経常利益 (経常利益率)	2,177 (4.2%)	2,180 (4.2%)	1,664 (3.0%)	△513 (△23.6%)	△515 (△23.6%)	(株)ジェンコ株式売却益 229
特別利益	360	—	101	△259 (△72.0%)	—	
特別損失	52	—	190	+137 (+261.2%)	—	子会社事務所移転費用 161
税金等調整前純利益	2,485	—	1,575	△909 (△36.6%)	—	
法人税等	910	—	626	△283 (△31.2%)	—	
少数株主利益又は損失(△)	35	—	△297	△332 (△937.0%)	—	特別目的会社ICS少数株主損失△317
当期純利益*1	1,539	1,260	1,246	△293 (△19.0%)	△13 (△1.1%)	

*1：当社株主に帰属する当期純利益

連結貸借対照表

SDIメディア買収準備資金の調達等により、資産合計は201億円増

(単位：百万円)

		2014年3月期末	2015年3月期末	前年末比	主な増減の要因
資産の部	流動資産	27,814	47,986	+20,172	
	うち現預金	9,747	30,978	+21,230	SDIメディア買収準備資金 +19,175
	固定資産	14,231	14,209	△21	
	資産合計	42,045	62,196	+20,151	
負債・純資産の部	流動負債	12,770	20,205	+7,435	
	固定負債	3,127	6,963	+3,836	
	負債合計	15,897	27,168	+11,271	SDIメディア買収準備資金 ・短期借入金+7,680 ・長期借入金+4,325
	株主資本	25,445	26,827	+1,382	自己株式の処分による資本剰余 金の増加+773
	その他包括利益累計額	397	1,007	+609	
	少数株主持分	305	7,192	+6,887	特別目的会社ICSの少数株主持 分+6,877
	純資産合計	26,148	35,027	+8,879	
負債純資産合計	42,045	62,196	+20,151		

連結キャッシュ・フロー計算書

営業活動によるCF+35億円、財務活動によるCF+191億円

	2014年3月期	2015年3月期	(単位：百万円)
税金等調整前当期純利益	2,485	1,575	
減価償却費	1,451	1,434	
関係会社株式売却益	△229	—	
売上債権の増減額	△1,550	710	
たな卸資産の増減額	△1,196	1,541	
仕入債務の増減額	1,138	△548	
その他	615	△1,160	
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,715	3,552	
有形固定資産の取得による支出	△1,503	△820	
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得および売却による収入	428	—	
その他	△478	△652	
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,553	△1,472	
配当金の支払額	△637	△637	
自己株式の売却による収入	—	773	
短期借入金の純増額	—	7,200	
少数株主からの払込みによる収入	—	7,194	
その他	△66	4,606	
財務活動によるキャッシュ・フロー	△703	19,137	← SDIメディア買収準備資金
現金および現金同等物の増減額	501	21,250	
現金および現金同等物の当期末残高	8,726	29,977	

2016年3月期 計画

2016年3月期 損益計画

SDIメディアの連結子会社化で売上規模拡大、既存事業は増収増益

<参考> SDIメディアを除く既存事業 (単位: 百万円)

区分	2014年3月期	2015年3月期	2016年3月期	
	通期実績	通期実績	通期予想	前年比
売上高	51,526	55,651	76,000	+20,348 (+36.6%)
営業利益 (営業利益率)	2,047 (4.0%)	1,747 (3.1%)	1,800 (2.4%)	+52 (+3.0%)
経常利益 (経常利益率)	2,177 (4.2%)	1,664 (3.0%)	1,800 (2.4%)	+135 (+8.1%)
当期純利益*1	1,539	1,246	1,100	△146 (△11.7%)
EBITDA*2	3,576	3,184	5,596	+2,412

2015年3月期	2016年3月期	
通期実績	通期予想	前年比
55,651	57,000	+1,348 (+2.4%)
2,333 (4.2%)	2,500 (4.4%)	+167 (+7.2%)

<SDIメディア> ※為替レート1US\$ = 120円換算

12月決算のため、2016/3期は9ヶ月間の算入

- ✓ 売上高190億円、営業利益△7億円、
当期純利益△3.4億円
- ✓ のれん償却額10億円

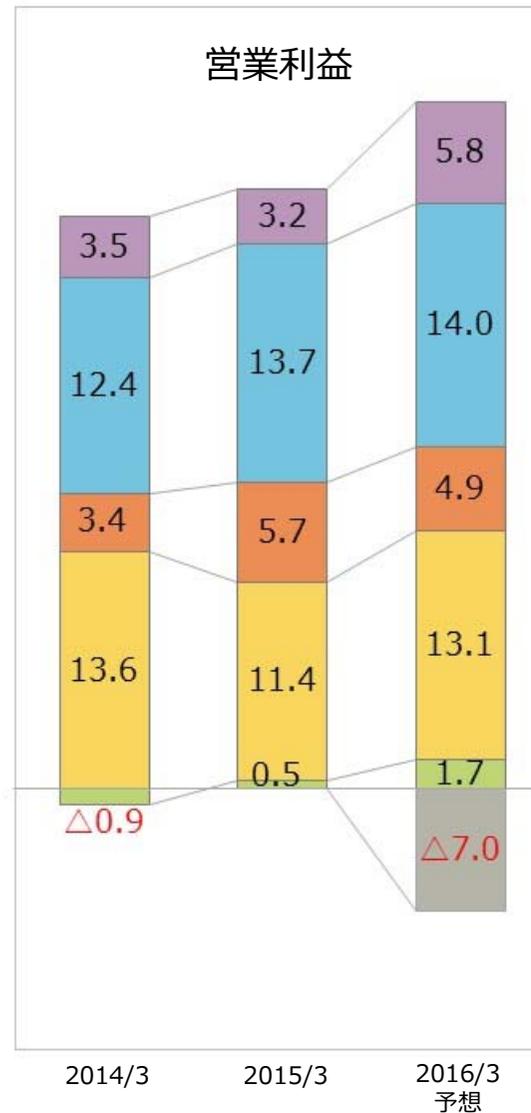
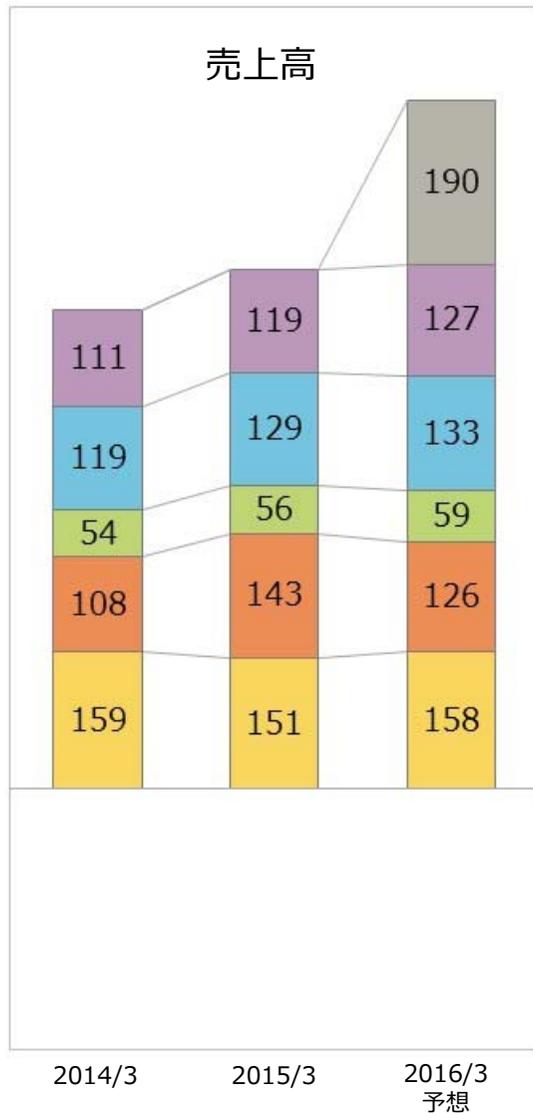
*1: 当社株主に帰属する当期純利益

*2: EBITDA = 「営業利益 + のれん償却費 + 減価償却費」



セグメント別損益計画

(単位：億円)



- 映像技術サービス
- 映像ソフト
- 放送
- 映像システム
- 人材コンサルティング
- メディア・ローライゼーション

※各事業セグメントの売上高と営業利益を積上表示しており、連結売上高、連結営業利益とは異なります。

事業セグメント別の業績・計画

映像技術サービス事業



主に映画・テレビ番組・CMの映像の編集と加工を行う事業

事業内容

- ・映画・テレビ番組、CM、PR等の映像・音声編集加工
- ・DCP（デジタルシネマパッケージ）作成等デジタルシネマ関連サービス、フィルム現像
- ・コンテンツ流通・配信サービス ・デジタル合成・VFX・CGI制作

撮影



制作



上映／流通



映像技術サービス事業



映像制作・流通分野のネットワーク化により、ビジネスモデルが大きく変化

<2015/3期実績>

売上高 151億98百万円 (△7億71百万円) **営業利益 11億41百万円** (△2億23百万円)

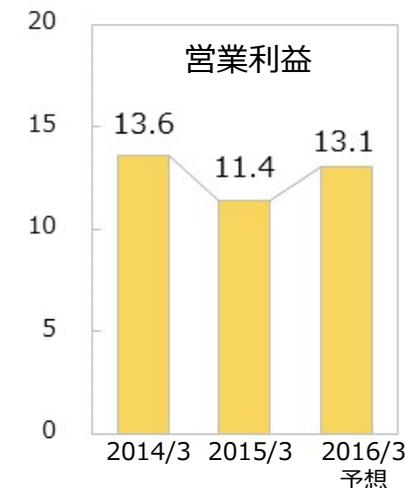
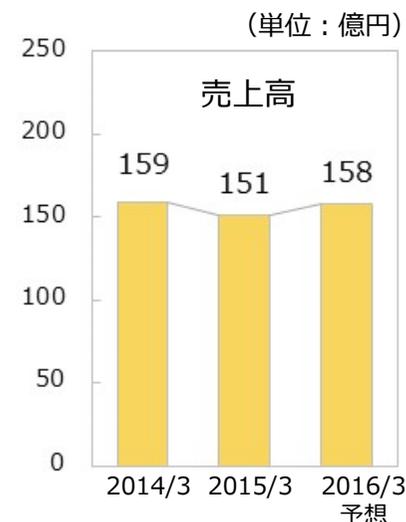
- ✓ 主力のテレビ番組・CM分野のポストプロ作業が若干苦戦
- ✓ 動画配信サービスの増加でDVD/Blu-rayパッケージ市場が縮小傾向で苦戦
- ✓ アーカイブやアニメ等、新たな収益源の芽生え

- ・マレーシア拠点の始動
- ・CM分野のポストプロ機能を銀座スタジオに集約、CG/VFX コンポジットルーム設置
- ・JPPA AWARDS 2014で11作品入賞、最高賞である「経済産業大臣賞」、「音響技術グランプリ」をW受賞。

<2016/3期予想>

売上高 158億円 (+6億01百万円) **営業利益 13億10百万円** (+1億68百万円)

- ✓ テレビ番組・CM分野のポストプロ作業、サービスの差別化を図り収益力強化 -ファイルベース化、4K制作等、技術革新を先取り-
- ✓ アーカイブ、アニメに加え、コンテンツ流通プラットフォームの確立等、新たな収益源の育成と創出



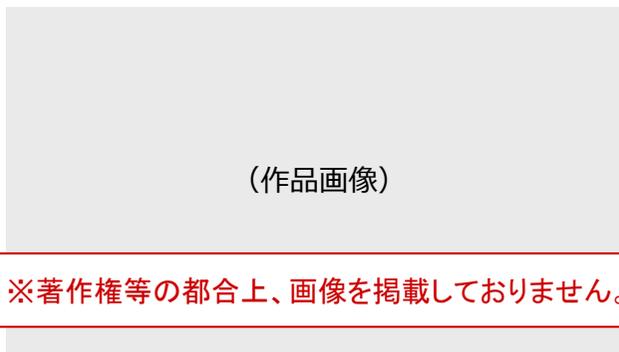
<2015年3月期の主な制作作品：3Dプロジェクションマッピング、その他>

● 東京ビッグサイト



東京ビッグサイト プロジェクションマッピング
“MUSICAL CLOCK”

● 会津鶴ヶ城



鶴ヶ城プロジェクションマッピングはるか2014
～庄助の春こい絵巻～

● 東京スカイツリー



「東京スカイツリータウン®ドリームクリスマス2014」
プロジェクションマッピング

※著作権等の都合上、画像を掲載しておりません。

● SUBARU新宿ビル



SUBARU Our gratitude to the Shinjuku area

● 横浜・八景島シーパラダイス



横浜・八景島シーパラダイス 「ウミージカルショー ～
La・Paci～」 プロジェクションマッピング

● その他：3D VR映像コンテンツ



オキュラスリフト（バーチャルリアリティ用 頭部搭載型
ディスプレイ）を使用し、日本最大のエネルギー開発企
業「INPEX」が手掛けるエネルギー基地を巡るプロモー
ション映像

映像ソフト事業



**制作映画 過去最多の11作品で増収増益、
各賞受賞でクリエイティビティが高く評価**

<2015/3期実績>

売上高 143億06百万円 (+34億90百万円) 営業利益 5億73百万円 (+2億27百万円)

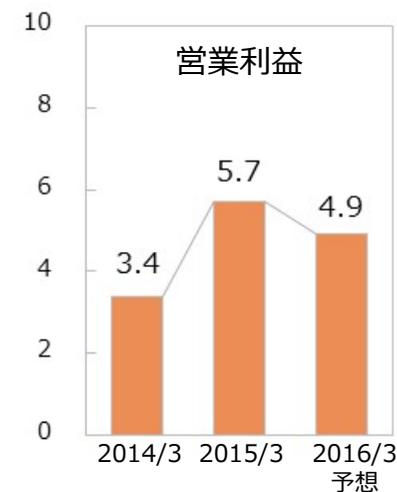
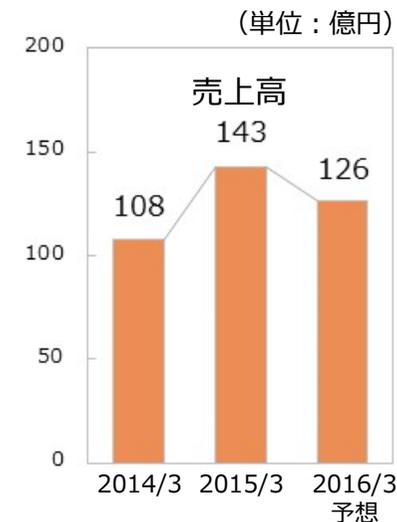
- ✓ CM制作は受注本数の増加に加え大型案件を確保し、好調に推移
- ✓ テレビドラマ、3Dプロジェクションマッピング制作も好調

- ・第38回日本アカデミー賞で「永遠の0」「紙の月」「STAND BY ME ドラえもん」が最優秀賞獲得
- ・CM作品がACC CM FESTIVAL、アヌシー国際アニメ映画祭、ADFEST等で多数受賞
- ・スマホ向けゲームアプリ2本配信開始、ニッチ市場へ小型作品を継続投入

<2016/3期予想>

売上高 126億円 (△17億06百万円) 営業利益 4億90百万円 (△83百万円)

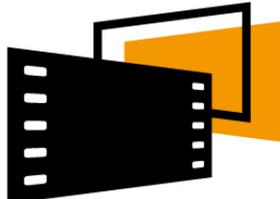
- ✓ CM等、広告映像制作分野の的確なマーケティングと営業展開
- ✓ 映画制作作品数は前年の反動で減少を見込み、減収減益
- ✓ プロジェクションマッピング等、空間映像も引き続き注力



BS放送、スカパーでのチャンネル運営等を行う事業

事業内容

- ・衛星放送、CATV、ホテルペイテレビ等の番組の放送、コンテンツ供給
- ・映像コンテンツの企画・制作・編成

チャンネル	<p>イマジカBS・映画</p>  <p>イマジカBS</p>	<p>歌謡ポップスチャンネル</p>  <p>歌謡ポップス チャンネル</p>	<p>FOODIES TV (フーディーズTV)</p> 
視聴可能世帯数*1	<p>視聴可能世帯数 (2015/3時点)</p> <p>約483万世帯</p>	<p>視聴可能世帯数 (2015/3時点)</p> <p>約584万世帯</p>	<p>視聴可能世帯数 (2015/3時点)</p> <p>約199万世帯</p>
特長	<p>名画・名作系映画CH 幅広い年齢層の映画ファン</p>	<p>唯一の演歌・歌謡曲専門CH 40歳以上をターゲット</p>	<p>国内唯一の食専門CH 主婦やファミリーに人気</p>

*1：視聴可能世帯数とは、スカパー！、CATV等と契約し、当該チャンネルの視聴が可能な世帯の数

「歌謡ポップスチャンネル」が引き続き好調、事業セグメントの黒字化

<2015/3期実績>

売上高 56億10百万円 (+1億37百万円) **営業利益 55百万円 (+1億48百万円)**

- ✓ 「イマジカBS・映画」は5月末スカパーSD放送が終了するも、加入者が着実に増加、増収基調
- ✓ 「歌謡ポップスチャンネル」は加入者数増加で媒体価値が向上、広告収入が増加
- ✓ ホテル事業は安定的な受注と経費等の圧縮により、堅調に推移

- ・英国：ITV Studios Global Entertainmentと、放送権・VOD配信権の包括的取得、ITVコレクション放送
- ・「青い体験」等、シネフィルレーベルのDVD/Blu-rayが販売好調
- ・Jリーグアーカイブ事業の安定運用開始、他スポーツ等への展開を模索

<2016/3期予想>

売上高 59億円 (+2億89百万円) **営業利益 1億70百万円 (+1億14百万円)**

- ✓ 運営チャンネルのブランド確立、更なる加入者獲得で収益力強化
- ✓ 放送コンテンツの他メディア展開を推進
- ✓ ホテル事業の収益基盤強化と、次世代ホテルソリューションへの取り組み

(単位：億円)



映像システム事業

Photron

連結子会社全5社

画像領域に特化したシステムの開発、製造、販売を行う事業

事業内容

- ・ 高速度ビデオカメラ等の開発・製造・販売
- ・ 放送用映像機器の開発・製造・販売

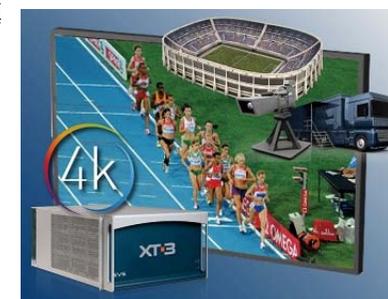
イメージングシステム（高速度ビデオカメラ）

研究開発や設備・装置の検証などで活用する、画像計測システム



プロ用映像機器（放送映像システム）

テレビ局の映像機器を設計から導入までトータル提案



CADソリューション

製図作業から図面の管理・活用まで効率化を提案



医用画像システム

医療現場の要求に応える動画ネットワークシステム



教育映像システム

多彩な講義収録システムで教育現場の映像ニーズに対応



画像処理LSI

映像機器等の中核部品となる画像処理LSI



映像システム事業

Photron

連結子会社全5社

イメージング分野の新製品が好調で業績に大きく貢献 2期連続 過去最高益を計上

<2015/3期実績>

売上高 129億39百万円 (+10億19百万円) 営業利益 13億71百万円 (+1億28百万円)

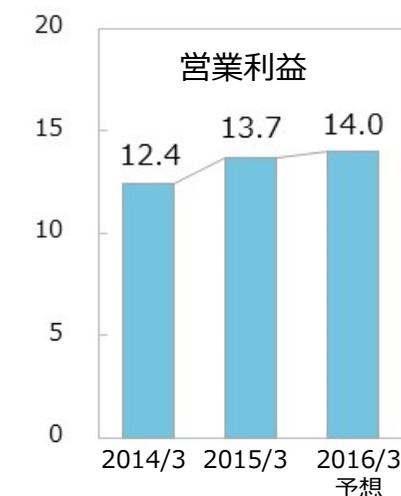
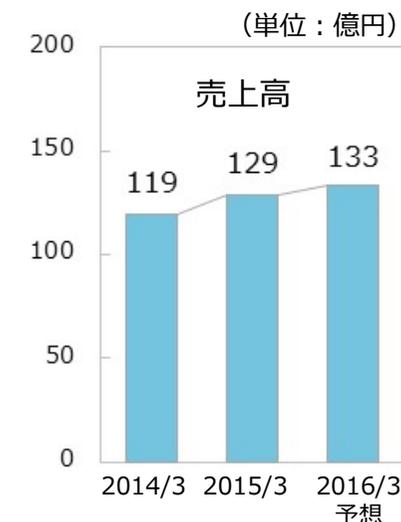
- ✓ イメージング分野は高速度ビデオカメラの新製品が好評で国内・海外とも好調に推移
- ✓ プロ用映像機器は大型案件の受注や保守体制強化により前年比増

- ・ 2014年11月 (株)テレキュートを子会社化（非連結）、24時間365日の保守・サポート体制を構築
- ・ 映像制作フロー支援プラットフォーム「HARBOR」の立ち上げ、放送局やポスプロ、撮影スタジオ等と契約

<2016/3期予想>

売上高 133億円 (+3億60百万円) 営業利益 14億円 (+28百万円)

- ✓ 次世代カメラの開発体制、ワールドワイドでの営業力、技術サポート力の強化
- ✓ ユーザー数増加に伴うサポート体制の更なる強化



人材派遣・紹介等クリエイティブ業界に特化した人材サービス事業

事業内容

- ・人材派遣、人材紹介の人材コンサルティングサービス
- ・WEB、GAME・CG等の制作受託サービス

人材派遣・人材紹介

映像業界のクリエイターや、WEB・ゲーム・デザイナーなど、豊富な登録者から最適な人材を厳選し、必要時に最適なスキルの人材を派遣・紹介



研修・トレーニング

業界最前線で即戦力として活躍できる人材を育成する、独自のトレーニングプログラム

- ✓ WEB
- ✓ DTP・デザイン
- ✓ CG・映像 etc



制作受託サービス

優秀なクリエイターを活用し、最適な制作チームをフレキシブルに構成、WEBサイト・CG・ゲーム制作等をバックアップ



求人メディア「クリ博」

クリエイティブ分野に特化した日本最大級の採用支援サイト運営と採用イベント開催



人材紹介ニーズの高まりで人材派遣・紹介が好調

<2015/3期実績>

売上高 119億31百万円 (+7億60百万円) 営業利益 3億28百万円 (△29百万円)

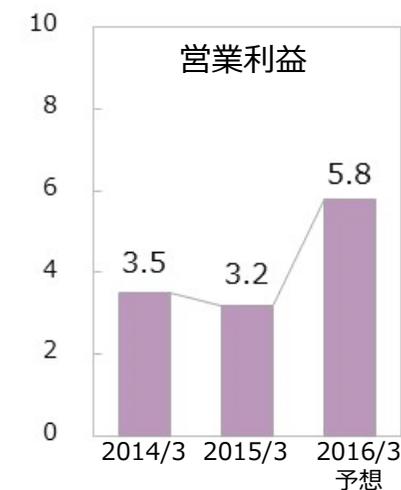
- ✓ 主力の派遣事業は、Web職種やゲームエンタテインメント職種、映像技術職種を中心に、派遣者数が増加
- ✓ 正社員ニーズの高まりで人材紹介も好調
- ✓ コンテンツ制作受託はゲーム制作案件の受託が低迷、前年比減

- ・デバッグ新拠点を東京（新宿）に設置、11月より稼働開始
- ・企業向け映像制作事業を行う(株)KVCの全事業譲受（2014年10月1日付）
- ・再就職・転職支援サービス「キャリア応援ナビ」が、第3回 日本HRチャレンジ大賞 人材サービス優秀賞受賞

<2016/3期予想>

売上高 127億円 (+7億68百万円) 営業利益 5億80百万円 (+2億51百万円)

- ✓ メディアやイベント、教育と連動した人材の獲得
- ✓ 映像関連の人材事業の拡大に注力



メディア・ローカライゼーション事業



37ヶ国、80言語以上のワールドワイドな吹替え・字幕付けを行う事業 売上高は年率10%程度の成長を見込む

事業内容

- ・吹替え（50言語以上）、字幕付け（80言語以上）
- ・聴覚障害者向け字幕、視覚障害者向け音声解説
- ・クライアントは、ハリウッドメジャーや大手放送局など、海外の大手映像関連企業

<2016/3期予想>

売上高 190億円 営業利益 △7億円（参考：EBITDA 14.6億円 *1）

- ✓ SDIメディアは12月決算のため、2016/3期は9ヶ月間の算入
- ✓ 為替レート1\$ = 120円換算
- ✓ 2016/3期の買収に伴うのれん償却額は10億円

*1：EBITDA = 「営業利益 + のれん償却費 + 減価償却費」

<SDIメディアの進出地域>



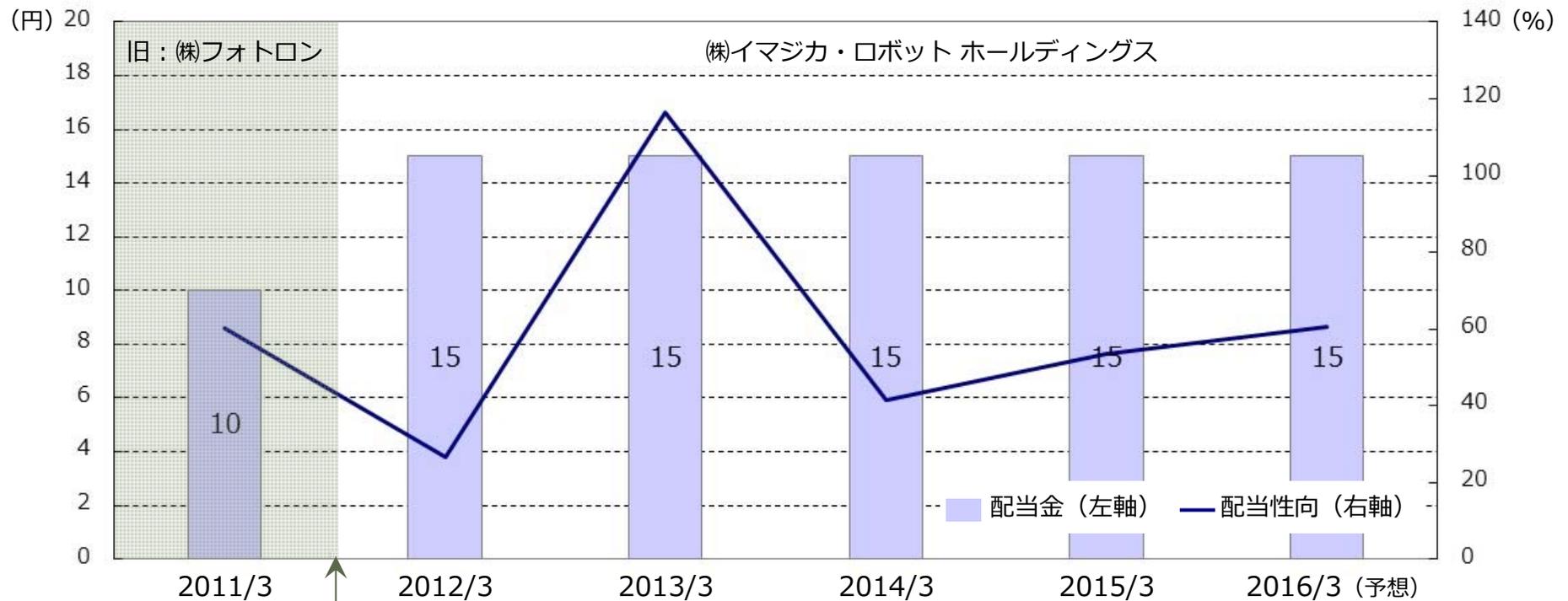
今後の事業展開

- ✓ **グループ成長へ向けた投資の継続**
- ✓ **グローバルに事業展開する映像企業グループとして成長をはかる**
 - **SDIメディアの買収の狙い**
 - 日本コンテンツの海外進出促進にビジネスチャンス
 - アジア圏のローカライズビジネスの新規開拓
 - グループ各セグメントの事業とのシナジー追求
- ✓ **映像技術力、映像制作力、サービスマインドをコアコンピタンスとするユニークな企業グループとしてお客様に貢献**

配当金の推移

【基本方針】

株主の皆様に対する利益還元を経営の最重要事項のひとつと位置づけたうえで、財務体質の強化及び経営環境の変化に対応するために必要な内部留保の充実等を勘案し、安定した配当政策を実施することを基本方針として取り組んでおります。



グループ組織再編により
イマジカ・ロボット・ホールディングスが上場

区分	2014年3月期末	2015年3月期末	2016年3月期末 (予想)
配当金	15円	15円	15円
配当性向	41.4%	53.4%	60.7%



参考資料

・ 事業セグメント別業績	P.36
・ 2015年3月期 トピックス	P.37
・ 会社概要	P.39
・ イマジカ・ロボットグループの沿革	P.40
・ グループ経営理念	P.41
・ 用語解説	P.42
・ お問い合わせ先	P.44

事業セグメント別業績

(単位：百万円)

		2014年3月期	2015年3月期	2016年3月期	
		通期実績	通期実績	通期予想	前年同期比
映像技術サービス事業	売上高	15,970	15,198	15,800	+601 (+4.0%)
	営業利益 (営業利益率)	1,365 (8.5%)	1,141 (7.5%)	1,310 (8.3%)	+168 (+14.8%)
映像ソフト事業	売上高	10,816	14,306	12,600	△1,706 (△11.9%)
	営業利益 (営業利益率)	346 (3.2%)	573 (4.0%)	490 (3.9%)	△83 (△14.6%)
放送事業	売上高	5,472	5,610	5,900	+289 (+5.2%)
	営業利益 (営業利益率)	△92 (---%)	55 (1.0%)	170 (2.9%)	+114 (+206.2%)
映像システム事業	売上高	11,919	12,939	13,300	+360 (+2.8%)
	営業利益 (営業利益率)	1,243 (10.4%)	1,371 (10.6%)	1,400 (10.5%)	+28 (+2.1%)
人材コンサルティング事業	売上高	11,170	11,931	12,700	+768 (+6.4%)
	営業利益 (営業利益率)	357 (3.2%)	328 (2.8%)	580 (4.6%)	+251 (+76.8%)
メディア・ローカライゼーション事業	売上高	---	---	19,000	---
	営業利益 (営業利益率)	---	---	△700 (---%)	---

2015年3月期 上期トピックス

● 東京証券取引所市場第一部上場

● 代表取締役社長 塚田眞人 就任

● 組織変更、「成長戦略の推進」と「経営基盤の一層の強化・維持」に重点

4月	5月	6月	7月	8月	9月
<ul style="list-style-type: none"> ● ロボットがスマートフォン向けネイティブゲームアプリ「マジックガンナー」配信開始、40万ダウンロード突破 ● ロボット制作連続テレビドラマ、TBS x WOWOW 共同製作「MOZU シーズン1～百舌の叫ぶ夜～」放送開始 ● ロボット制作連続テレビアニメ「カリノ・コニ」テレビ東京で放送開始 	<ul style="list-style-type: none"> ● ロボット制作ブランディングムービー「Tissue Animals」がアヌシー国際アニメーション映画祭 CM部門でグランプリ（クリスタル賞）受賞 受賞 ● ロボット制作映画「We are REDS! THE MOVIE ～開幕までの7日間～」劇場公開 ● イマジカBSで、全米中が熱狂した「ハウス・オブ・カード 野望の階段 シーズン2」放送開始 ● IMAGICA TVが英ITVの映像コンテンツ放送権・VOD 配信権を包括的に取得、「イマジカBS・映画」でITVコレクション放送 ● IMAGICA が映像制作クリップ（素材）共有システム「GlandWrite」サービス開始 ● フォトロンが小型軽量、かつ耐衝撃性能100Gの高速カメラ「FASTCAM Mini UX50」新発売 	<ul style="list-style-type: none"> ● フォトロンが生産現場向け・ポータブル長時間ハイスピードカメラ「PhotoCam Speeder V2」新発売 ● IMAGICAが「映像制作向けハードディスク・レンタルサービス」を提供開始 ● ロボット制作連続テレビドラマ（TBS）「家族狩り」放送開始 ● P.I.C.S.が横浜ドックヤードガーデン第4弾コンテンツ「ピカチュウ Nice to meet you！」プロジェクトマッピング映像制作 ● イマジカデジタルスケープがウルトラセブンの怪獣コレクションアプリ「TDF Monsters Research File」配信開始 ● グループ7社共同「第2回プロダクションEXPO 東京」出展 	<ul style="list-style-type: none"> ● ロボット制作映画「STAND BY ME ドラえもん」劇場公開、興行収入82億円突破 ● 歌謡ポップスチャンネル主催イベント「演歌男子。LIVE～夏祭～」原宿クエストホールで開催、チケット即日完売 ● P.I.C.S.がKITTEの光と音のエンターテインメントショー「水花火」の映像制作 ● IMAGICAウェスト「MPTE AWARDS 2014」柴田賞を受賞、フィルムアーカイブ技術が評価 受賞 ● ロボット制作映画「little forest 夏秋編」劇場公開 	<ul style="list-style-type: none"> ● ロボット企画・開発、スマートフォン向けネイティブゲームアプリ「KUFU-MAN（クフウマン）」配信開始 ● フォトロンが偏光高速イメージング装置「CRYSTAシリーズ」および、光学フィルム業界向け複屈折マッピング計測装置「KAMAKIRIシリーズ」新発売 ● 「第54回 ACC CM FESTIVAL」でロボット制作6作品、P.I.C.S.制作3作品が受賞 受賞 ● クリエイティブフェスティバル「Spikes Asia 2014」で、P.I.C.S.が制作に携わった2作品が受賞 受賞 	<ul style="list-style-type: none"> ● イマジカデジタルスケープが「第3回日本HRチャレンジ大賞」人材サービス優秀賞（人材マネジメント部門）受賞 受賞

2015年3月期 下期トピックス

● 吹替え・字幕付けのSDIメディアの買収決議・発表

10月	11月	12月	1月	2月	3月
<ul style="list-style-type: none"> ● ロボット制作6作品およびP.I.C.S.制作3 作品が第54回 ACC CM FESTIVAL インタラクティブ部門にて多数受賞 受賞 ● P.I.C.S.制作2作品「SAYONARA 国立競技場FINAL “FOR THE FUTURE”/“ourstadium.jp”」が「Spikes Asia 2014」にて受賞 受賞 ● スマホ向けプレミアム食動画メディア「FOODIES magazine」配信開始 ● P.I.C.S.企画・映像制作「東京ビッグサイト プロジェクトマッピング」を開催 ● ロボット制作映画「小野寺の弟・小野寺の姉」劇場公開 ● P.I.C.S. プロデューサー兼テクニカルディレクター 浅井宣通による映像作品「OMOTE (オモテ)」が、国内外の多数メディアで話題 	<ul style="list-style-type: none"> ● イマジカデジタルスケープ「新宿御苑スタジオ」開設、デバッグ事業を拡大 ● IMAGICA都内全拠点に、フォトロン開発の映像制作支援プラットフォーム「HARBOR」導入 ● フォトロンが株式会社テレキュートの株式を取得 ● ロボット制作映画「紙の月」「寄生獣」劇場公開 ● 2014年国際放送機器展「Inter BEE」に出展 	<ul style="list-style-type: none"> ● FOODIES TVのオリジナル番組「夢眠ねむ&Maa 夢眠姉妹のわくわく♡キュイジンヌ」がスカパー！アワード2014 ココロ動いた番組賞を受賞 ● P.I.C.S. 映像制作のプロジェクトマッピング「東京スカイツリータウン®ドリームクリスマス2014」、八景島シーパラダイス「ウミーカルショー〜La・Paci〜」を開催 ● 食専門チャンネル「FOODIES TV」が 米国最大級のオンライン食動画ネットワーク「Tastemade」とコンテンツパートナー契約締結 ● ロボット企画・開発、スマートフォン向けゲームアプリ「Pico^2 Sprites (ピコピコスプライト)」を配信開始 	<ul style="list-style-type: none"> ● IMAGICAウェストが、松竹オープニングロゴ制作 ● ロボット制作映画「永遠の0」、「紙の月」、「STAND BY ME ドラえもん」が第38回日本アカデミー賞、最優秀賞10冠獲得 受賞 ● 食専門チャンネル「FOODIES TV」が YouTube の人気料理チャンネル「Cooking with Dog」とのコラボレーション番組を制作、4月放送開始予定 ● ロボット制作 USJアトラクション映像「エヴァンゲリオン・ザ・リアルD」公開 	<ul style="list-style-type: none"> ● IMAGICA創業80周年 ● IMAGICAが銀座七丁目スタジオにCG/VFX×コンポジットルーム「BOX」開設 ● ロボット制作映画「リトル・フォレスト 冬/春」劇場公開 ● ロボット制作映画「マジック・ドルフィン」劇場公開 ● ロボット制作映画「幕が上がる」劇場公開 	<ul style="list-style-type: none"> ● マスコミ業界最大級の合同企業説明会「マスコミ映像就職フェスタ」開催 ● ロボット制作映画「暗殺教室」劇場公開 ● IMAGICAウェストが第回大阪広告協会賞 特別賞受賞 受賞 ● アジア太平洋地域最大の広告祭 ADFEST 2015 (第18回アジア太平洋広告祭) でロボット、ピクス制作作品が多数受賞 受賞

会社概要

(2015年4月1日時点)

会社名	株式会社イマジカ・ロボット ホールディングス 東京証券取引所市場第一部 証券コード：6879		
設立	1974年6月10日（1935年2月18日：極東現像所として京都・太秦で創立）		
本店所在地（登記上）	東京都品川区東五反田2-14-1		
本社所在地	東京都千代田区内幸町1-3-2 内幸町東急ビル11階		
代表者	代表取締役会長 長瀬文男 、 代表取締役社長 塚田真人		
事業内容	映像技術サービス事業、映像ソフト事業、放送事業、映像システム事業、人材コンサルティング事業、メディアローカライゼーション事業を営むグループ会社の株式保有ならびに事業の統括		
連結売上高	556億51百万円（2015年3月期）		
従業員数	2,394名（2014年3月末）		
グループ会社	連結子会社：59社、持分法適用関連会社1社、非連結子会社4社持分法非適用関連会社1社		
発行済み株式総数	44,531,567株		
主要株主	株式会社クレアート	60.1（%）	（注）
	株式会社三井住友銀行	2.8（%）	
	株式会社フジ・メディア・ホールディングス	1.9（%）	
	（2014年9月末）		（注）発行済み株式総数に対する比率

イマジカ・ロボットグループの沿革

1935年 2月	映画フィルム現像・上映用プリント事業を目的に、株式会社極東現像所として京都・太秦で創業
1942年 1月	商号を株式会社東洋現像所に変更
1986年 1月	商号を株式会社IMAGICAに変更
1992年 7月	映像機器開発・製造・販売の株式会社フォトロンへ資本参加
1996年 5月	CSデジタル放送の株式会社シネフィルを設立、同年10月より放送事業開始
1997年 9月	株式会社フォトロンが株式店頭公開
2006年 3月	株式会社ロボットと経営統合
2006年 7月	商号を株式会社イマジカ・ロボット ホールディングスに変更
2009年 2月	短編アニメ『つみきのいえ』が米国アカデミー賞受賞
2009年 5月	人材コンサルティングの株式会社デジタルスケープに資本参加
2011年 4月	グループ組織再編により株式会社イマジカ・ロボット ホールディングスがジャスダックに上場
2012年 3月	映画専門のBSチャンネル「イマジカBS」開局
2012年12月	東京証券取引所市場第二部に上場
2014年 4月	東京証券取引所市場第一部に上場
2015年 4月	メディア・ローカライゼーション（吹替え・字幕付け）のSDIメディアを買収

グループ経営理念

MAGIC FACTORY

Image Magic Creative Magic Technology Magic Communication Magic

イマジカ・ロボットグループは、誠実な精神をもって、
映像コミュニケーションにおける新たな価値創造につとめ、
人々に楽しい驚きを与える“魔法の工場”をめざします。

用語解説①

ポスプロ (ポストプロダクション)	撮影素材を作品の流れに沿って編集を行う、色調を調整する、CGとの合成や音声と合わせるなど、映像の制作工程で撮影終了時点から作品完成までの処理工程のこと。また専門にこれらを扱う部門や会社の総称。
ファイルベース	旧来は映像データの送付や保存にはテープを媒体として使用していたが、最近ではデジタル化に伴い、テープを使わずデータファイルの状態ですべてを送付・保存が可能となった。取り扱う手間や管理面でも便利で、放送局等でもデータ化が進んでいる。
DCP (デジタルシネマパッケージ)	デジタル上映のために映像、音声、字幕等、全ての映画コンテンツ情報を圧縮、暗号化した完成原稿のこと。
映像アーカイブ	映像資産を未来へ継承して活用するため、映像を検査・修復し、適切な処置をした上で保存すること。映画やドラマ、スポーツやドキュメンタリー映像、企業の実験記録映像など、世の中には倉庫で眠る貴重な映像が多く存在するが、放置すると時間とともに保存メディアの劣化や機材の世代交代で視聴が困難になる。
CGI制作	CGI (computer generated image) はコンピュータで生成・加工された画像の総称で、CGより意味が広い。CGI制作は、3次元コンピュータ・グラフィクスを描くだけに限らず 実写画像データをフォト・レタッチなどで加工したり、3次元コンピュータ・グラフィクスと実写画像を合成し、新たな画像を生成すること。
ライセンス	著作物を利用したビジネスのこと。
3Dプロジェクション マッピング	建物などの凹凸を3Dデータ化しておき、その表面に立体的な映像をプロジェクターで映写する技術のこと。
高速度ビデオカメラ (ハイスピードカメラ)	高速現象を撮影することを目的としたカメラ。高速度ビデオカメラで撮影した映像を通常の速さで再生すると、スローモーションとして見ることができる。ハイスピードカメラともいう。
DTP	Desktop publishing (デスクトップパブリッシング) の略。日本語では卓上出版の意味で、書籍や新聞などの紙面のデザイン、割付、版下作成など出版のための一連の作業をコンピュータ上で行うこと。

用語解説②

デバッグ	ゲームなどのプログラムの中の「バグ」と呼ばれる欠陥や誤りを探して修正すること。プログラム開発において、重要な意味を持つ作業。
メディア・ローカライゼーション	作品の現地化のこと。コンテンツの輸出入に際して、言語の翻訳に加え、それぞれの国や地域における法令、慣習、文化に合うよう作品の一部を改訂すること。
視覚障害者向け字幕／ 聴覚障害者向け音声解説	通常の子幕や音声の内容に加え、話者の名前や効果音の記述等の追加情報を、テロップで表示したり音声で解説する。すべての人が平等に情報を受け取る権利は、世界中のメディア規制機関で基本的人権の1つとして扱われ始めており、義務付けるケースも増加している。

お問い合わせ先

株式会社イマジカ・ロボット ホールディングス

経営管理本部 企画部

T E L : 03-6741-5750

F A X : 03-6741-5751

Email : ir@imagicarobot.jp

URL : <http://www.imagicarobot.jp/>

【将来予測について】

本資料に記載されている当期ならびに将来の業績に関する予想、計画、見通し等は、現在入手可能な情報に基づき算定しており、判断や仮定に内在する不確実性および今後の事業運営や内外の状況変化等による変動可能性に照らし、実際の業績等が見通しの数値と異なる結果となり得ることをご承知おきください。